

東日本大震災から三年

熊本県と宮城県東松島市の「絆」

これまでの支援と被災地の現状

2011（平成23）年3月11日、テレビに映し出される地震と津波の映像は、私たちに大きな衝撃を与えました。この未曾有の大災害に対し、熊本県と県内の市町村では、被災地である宮城県東松島市へ支援を続けています。あれから3年。東松島市の復興は今どうなっているのでしょうか。

がれきは取り除かれても跡地は手つかずのまま



▲津波により、船が港から住宅地を抜け運河まで流された（2011年3月）



▲船やがれきは取り除かれたが、津波危険地域のため原野のままになっている（2013年11月）

また、熊本県内の小学校から被災した学校へ支援米が贈られ、熊本市図書館から東松島図書館へ移動図書館バスの貸し出しを受けたり、「くまモン」が被災した保育所を訪問し、子どもたちを励ましていただくなど、さまざまな形でご支援をいただきました。本当にありがとうございます。

震災発生直後からこれまで、熊本県の皆さんから東松島市へ多くの支援をいただきました。2011年4月～12月には熊本県の県職員・市町村職員による合同支援チーム「チーム熊本」が34回にわたって東松島市に派遣され、市役所での災害対応窓口業務や申請書の整理、市内でのボランティア活動など多岐にわたるご支援をいただきました（高森町から2人の職員を派遣）。翌2012（平成24）年4月から、熊本市をはじめ県内の市町村職員約40人が東松島市の復興事業を担うべく、長期派遣（最長1年間）をされています。

熊本県の支援に感謝

被災地への想いも大きな支援に
東松島市総務課 小山淳志さん

険しい復興への道のり

今後の大きな課題として「住宅の再建」「公共交通機関の復旧」「雇用の確保と地域経済の復興」が挙げられます。特に快適な住環境と安定した雇用の確保に向けて取り組んでいます。

住宅については、1450世帯以上の被災者が市内の仮設住宅や市内外の民間賃貸住宅に入居しており、今後の生活や将来の展望を模索しています。公共交通機関について、震災後から不通となり代行バスで運行しているJR仙石線は、鉄道路線を内陸部に移して来年中に開通する予定です。地域経済については、津波で被害を受けた農地や漁港・河川海岸の堤防の復旧工事が現在も進められ、地域経済の担い手である市内の事業者たちも、それぞれの業種・分野でがんばっています。

復興への道のりはまだまだ長く険しいものがあります。これからも、被災地・東松島のことを想っていたく、また記憶していただくだけでも私たちには大きな支援になります。熊本県と東松島市との絆が、これからもより一層深まることを願っています。

▼東松島市の災害公営住宅は、来月には約 250 戸が完成し、順次入居を開始する。2015（平成 27）年度までに戸建て・集合住宅を約 1 千戸整備・入居予定。



復興への思いを心の中に

今回紹介した東松島市に限らず、災害は思わぬ形で私たちにふりかかります。2012 年の九州北部豪雨災害や本年 2 月の大雪が記憶に新しいでしょう。

災害直後は関心も高く数多くの支援も行われますが、時間がたつにつれ関心が薄れつつあります。

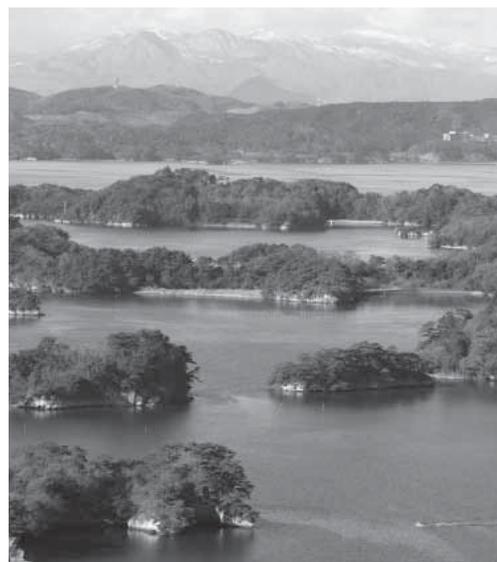
復興支援の一番の妨げは、この「被災地のことを忘れる」ことではないでしょうか。今も復興に奮闘する人たちのことを想い、日々の生活を送りたいものです。

(記事中の写真提供・東松島市)

東松島市について

宮城県中部に位置し、石巻市などに境を接する。日本三景の一つ「松島」と面し、宮戸島にある山「大高森」の山頂からは松島を一望できる。

東日本大震災では沿岸部が大津波に襲われ、死者・行方不明者は 1100 人を超え、市内全住宅の 3 分の 2 を超える約 1 万 1 千棟が全半壊した。



▲大高森から松島を望む



消防団員募集！



高森に住む元気ある若い男性諸君、あなたの勇気で“ふるさと高森”を守ってくれないませんか？

高森に住む元気のある女性のみなさん、あなたの真心で“ふるさと高森”を守ってくれないませんか？

いざというとき、近所のおじいさんおばあさんの手助けをしてくれないませんか？

2011年の東北大震災や2012年の九州北部豪雨災害での被災により、田舎における“消防団”の大事さや力強さを改めて感じました。地域の守る要です。

みなさんの真心をお待ちしております。

■お問い合わせ先 高森町消防団（事務局：総務課）Tel (62) 1111（内線 114）